



松村敦 Atsushi MATSUMURA

助教 Assistant Professor

博士(理学) Ph.D.

Keywords: 絵本, 読み聞かせ, 情報探索, 情報推薦

Contact: matsumur@slis.tsukuba.ac.jp

Web: <http://niccoli.slis.tsukuba.ac.jp/>



筑波大学  
University of Tsukuba

Graduate School of Library, Information and Media Studies

## 研究概要

子どもに絵本を届けることに関して総合的に研究しています。子どもの質問に対して人手で絵本の推薦を促すためのソーシャル絵本推薦システム, 思いがけない絵本との出会いを演出するセレンディビティ指向の絵本推薦システムなどシステムの的なアプローチの研究と, 絵本の読み聞かせ時の子どもの反応から子どもの好みの抽出を試みたり, 絵本の読み聞かせの方法によって子どもに与える影響を分析したりする実験的なアプローチの研究の2つの方向から研究しています。

また, 絵本に限らず情報検索・情報推薦システムの研究も行なっています。特に, 情報探索プロセスに着目した支援として, メタ認知を活性化するための bot を利用した研究や探索履歴情報を可視化するためのインタフェース, セレンディビティ指向の情報推薦システムの研究を行なっています。さらに, 情報システムのみならずリアルな空間での情報探索行動についての研究にも取り組んでおり, 両者を融合した情報アクセスシステムの実現を目指しています。

[www.slis.tsukuba.ac.jp](http://www.slis.tsukuba.ac.jp)

**子どもと絵本と読み聞かせ**

- ソーシャル絵本推薦システム「びくぶく」: 質問の登録, 他の子どもの質問に対して絵本を推薦
- 図書との出会いを演出する推薦サービス「まじよのでし」: 読者の興味, 読者の嗜好, 読者の年齢, 読者の性別, 読者の職業, 読者の学歴, 読者の収入, 読者の職業, 読者の学歴, 読者の収入
- 子どもの好み取得のための読み聞かせ場面と絵本の主題の分析: 読み聞かせ時の子どもの反応分析, 主題と反応の対応関係 = 子どもの好みの取得, 電子書籍絵本による自動化

**情報探索・情報推薦**

- 探索プロセスの可視化による情報探索支援: べたたつと, RAG
- セレンディビティ指向の情報推薦システム: 1. 読者の興味, 2. 読者の嗜好, 3. 読者の年齢, 4. 読者の性別, 5. 読者の職業, 6. 読者の学歴, 7. 読者の収入, 8. 読者の職業, 9. 読者の学歴, 10. 読者の収入
- トレーシングによる図書館の知識空間理解: 1. 心臓学, 2. 加球, 3. 1杯のコーヒー

## 論文

- 1) 松村敦, 森田花, 宇陀則彦: 絵本の読み聞かせ時の演じ分けが子どもの物語理解と物語の印象に与える影響. 日本教育工学会論文誌, 日本教育工学会, vol.39, Suppl., pp.125-128, 2016.1
- 2) 松村敦, 柿島大貴, 宇陀則彦: 子どもの質問を利用したソーシャル絵本推薦システムの提案. 図書館情報メディア研究, vol.13, no.2, pp.23-35, 2015.4
- 3) 松村敦, 根岸舞, 宇陀則彦: 絵本の読み聞かせ後の問かけが子どもの物語理解とイメージ形成に与える影響. 日本教育工学会論文誌, 日本教育工学会, vol.38, Suppl., pp.157-160, 2014.12
- 4) 常川真央, 松村敦, 宇陀則彦: 日本十進分類法を用いた類似読者発見手法. 情報メディア研究, 情報メディア学会, vol.12, no.1, pp.42-51, 2013.4
- 5) 鈴木啓史, 松村敦, 宇陀則彦: 図書館における資料探索行動に着目したセレンディビティのある情報推薦システムの提案. ARG 第8回 Web インテリジェンスとインタラクション研究会, pp.27-28, 2016.6
- 6) 青山優里彩, 松村敦, 宇陀則彦: メタ認知と感情に着目した対話による情報検索支援. 情報知識学会誌, 情報知識学会, vol.26, no.2, pp.233-238, 2016.5

## 社会貢献活動

図書館総合展で発表を行い, 図書館, 学校, 企業の方との意見交換を行なっています。現場のニーズを研究にフィードバックする貴重な機会となっています。また, 大学祭「雙峰祭」では, 研究成果を発展させた企画展示を行い, 一般市民への情報発信を続けています。過去には3度のグランプリを受賞しています。その他, 難民キャンプへ絵本を届ける活動に協力して絵本選定に関わったり, 子ども向けワークショップの開催を手伝ったりしています。

## メッセージ

研究室はチームとして動いています。松村研究室は強いチームを作ろうと日々努力しています。強いチームを作るには, 個人個人が自立した強さを持ち, そのうえでお互いを補い合うことが求められます。個人の成長のためにチームの成長があり, チームの成長によって個人が成長するような良い循環を期待しています。研究のみならず, 他の活動にも何でも興味を持って積極的に関わってほしいと考えています。必ず自分の成長につながるはずです。

## 関連情報サイト

- 1) <https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000040334073/>
- 2) <http://kinmirai.tumblr.com/>